

## 補助事業管理委員会 技術検討会（第1回）

### 議事概要

1 開催日時 平成28年1月20日（水）10:00～12:00

2 場 所 那覇第2地方合同庁舎1号館2階 大会議室

#### 3 技術検討会委員

ぐ し じゅんこ

具志 純子 沖縄県生活生協組合連合会

すぎむら やすひこ

杉村 泰彦 琉球大学農学部准教授

なかむら しんや

中村 真也 琉球大学農学部教授

（敬称略 五十音順）

#### 4 議事概要

（1）技術検討会委員及び補助事業管理委員の紹介を行い、座長については技術検討会委員の互選により中村委員に選任した。

（2）事務局より、砂川地区及び大保良田地区の事後評価（案）について説明を行い、その後、技術検討委員との質疑応答を行った。

（3）事後評価の結果に関する技術検討会の意見については、次回の技術検討会等にて取りまとめることとした。

## (参考)議事録

### 平成27年度 補助事業管理委員会技術検討会（第1回）議事録

1. 日 時：平成28年1月20日（水） 開会 午前10時00分 閉会 午前11時45分
2. 場 所：那覇第2地方合同庁舎1号館2階 大会議室
3. 出席者：技術検討委員 中村 真也 国立大学法人琉球大学農学部教授  
〃 杉村 泰彦 国立大学法人琉球大学農学部准教授  
〃 具志 純子 沖縄県生活協同組合連合会  
委員長 遠藤 順也 沖縄総合事務局農林水産部長  
委 員 白坂 進一 〃 総務調整官  
〃 長谷川 明宏 〃 農政課長  
〃 奥平 雅彦 〃 生産振興課長  
〃 島尾 武文 〃 土地改良課長  
幹 事 今別府 純一 〃 課長補佐（計画）  
〃 金子 誠 〃 企画指導官（経済資源）  
事務局 北村 知周 〃 防災係長  
〃 大城 判 〃 土地改良企画係長  
＜沖縄県担当＞  
前富里 善信 沖縄県農林水産部村づくり計画課主任技師  
伊禮 大地 〃 主事

#### 開会

○司会（島尾武文） それでは只今から農業農村整備事業等事後評価技術検討会を開催させていただきます。座長が選出されますまでの間、私のほうで進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、農林水産部長の遠藤より御挨拶を申し上げます。

○農林水産部長（遠藤順也） 沖縄総合事務局農林水産部長の遠藤です。技術検討会の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

初めに中村委員、杉村委員、具志委員の各委員の皆様方におかれましては、大変御多忙の中、また日頃から沖縄の農林水産業の発展に多大なるお力添えをいただきまして、改めて敬意を表する次第です。

また、沖縄県の協力の下、地区を代表して実施いたしました、宮古島市砂川地区の現地調査では大変お寒い中、対応頂きましてありがとうございました。

さて、我が国の農林水産業を取り巻く状況を見ますと、台風等の厳しい自然条件に加えまして、農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加等速やかに対応しなければならない課題が山積しており、また、昨年12月には御案内のとおりTPPの大筋が合意されたところであります。

このような中、政府としましては、「総合的なTPP関連政策大綱」を昨年11月に策定し、特に農林水産分野では「農政新時代」を掲げて、攻めの農林水産業への転換と、経営安定・安定供給のための措置の充実等を図ることとしております。

沖縄総合事務局では、こうしたTPP対策について、現場の皆様へ直接御説明に上がり、現場の皆様の懸念と不安の払拭に努めて参るとともに、将来への意欲を後押しし、「強くて豊かな農林水産業」と、「美しくて活力のある農山漁村」に向けて全力を尽くして参ります。

本日の農業農村整備事業等事後評価技術検討会は、農林水産省政策強化基本計画に基づき、総事業費10億円以上の事業を対象とし、事業完了の5年経過後に、社会情勢の変化や、事業効果の発現状況等の各評価項目について点検し、事業実施のもたらす効果について、総合的かつ客観的に評価することとなっております。

事後評価（案）につきましては、第三者から構成される技術検討会を設置し、委員会へ諮問するとともに、その評価結果は本年3月末に公表される予定となっております。後ほど事務局より説明がありますが、委員の皆様のお意見、御指導等を頂き、次回技術検討会や各委員への個別説明に反映させたいと考えております。

以上簡単ではございますが、一言御挨拶とさせていただきます。

○司会（島尾武文） 続きまして、改めまして委員の紹介をさせていただきます。  
琉球大学農学部教授、中村委員でございます。

○委員（中村真也） よろしくお願ひします。

○司会（島尾武文） 同じく琉球大学農学部准教授杉村委員でございます。

○委員（杉村泰彦） よろしくお願ひします。

○司会（島尾武文） 沖縄県生活協同組合連合会会長理事具志委員でございます。

○委員（具志純子） よろしくお願ひします。

○司会（島尾武文） 事務局として沖縄総合事務局、また事業主体として沖縄県の出席者については、お手元の出席者一覧により紹介に代えさせていただきます。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。配付資料につきましては、資料1、資料2、資料3、資料4と4部構成となっております。特に漏れ等はございませんでしょうか。もし不足があれば事務局にて対応させていただきます。

それでは、議事次第に従いまして進めてまいりたいと思いますが、その前に座長の選任を行わせて頂きます。

座長の選任については、設置要領に基づき、皆様の互選により選出させて頂きたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員（具志純子） よろしければお二人の先生からお願ひできればと思います。

○司会（島尾武文） それでは事務局案を提示させて頂いてもよろしいでしょうか。

○各委員 異議なし。

○司会（島尾武文） 事務局としては、中村委員に座長をお願いしたいと考えておりますがよろしいでしょうか。

○各委員 異議なし。

○司会（島尾武文） ありがとうございます。御賛同頂きましたので、中村委員に座長をお願い致します。今後の議事進行については中村座長をお願いしたいと思います。よろしくお願ひ致します。

○座長（中村真也） 琉球大学農学部の中村です。よろしくお願ひします。私たち委員には、率直な意見、コメント等を述べる事が求められていると考えております。私も含めて、様々な気付いた事を意見し、よりよい検討会にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

それでは議事に従って進めていきたいと思ひます。

まず最初に、この検討会に関する公開方法について、事務局から御説明をお願ひします。

○企画指導官（金子誠） 事務局の沖縄総合事務局土地改良課の金子と申します。よろしくお願ひします。公開方法についてですが、実施に当たり事前に傍聴のお知らせをしましたが、今回、傍聴希望者はおりませんでしたのでその旨御報告をさせていただきます。当検討会につきましては、当初傍聴可とし議事次第のみ配付し、資料については後日閲覧する方法で考えておりましたが、報告したとおり傍聴者希望者がいませんでしたので割愛します。

それから2つ目ですが、検討会の資料、議事概要につきましては、検討会終了後、沖縄総合事務局のホームページにて公表したいと考えています。公表に当たりましては、検討会終了後、各委員の方に内容を御確認頂いた上で、発言者を明記した形での公表を考えています。以上、公開方法について提案させていただきます。

○座長（中村真也） 議事に入る前に、当検討会の公開方法について、事務局から御説明がございました。了承したいと思いますけれどもいかがでしょうか。

○各委員 異議なし。

○座長（中村真也） それでは、公開方法については了承されたものとしまして、次の議事に入らせていただきます。

まず、議事1「農業農村整備事業等事後評価」について事務局より御説明をお願い致します。

○企画指導官（金子誠） 資料に基づき御説明させていただきます。

＜以下、資料1を説明＞

○座長（中村真也） 只今事務局より御説明のありました事後評価について、何か質疑等ありましたら受けたいと思いますが、何かございますでしょうか。

○委員（具志純子） 事前に現地視察や概要説明頂いた内容等について、これから評価の内容を検討するということですね。それで結構です。

○座長（中村真也） よろしいでしょうか。次に、議事2「事後評価地区別結果書（案）」について、事務局より御説明をお願いします。なお、対象地区は先ほど御説明のあった2地区になります。会議の時間の兼ね合いもありますので、質疑を含めて1地区概ね40分程度を考えております。

それではまず、砂川地区について簡潔に御説明をお願いします。

○企画指導官（金子誠） それでは、砂川地区につきまして資料2に基づき説明させていただきます。

＜以下、資料2を説明＞

○座長（中村真也） ただいま御説明のありました砂川地区の事後評価につきまして、質疑を受けたいと思います。どなたからでも結構ですがいかがでしょうか。

○委員（具志純子） 近くに地下ダムがありましたよね。あれは、砂川地区の水を全部カバーできるだけの量はないですね。将来もう少し容積が大きなものを造りたいというような話が前にあったと思いますが。

○企画指導官（金子誠） 御指摘の件ですが、国営事業の宮古地区において地下ダムを造成した際は期別かんがいという考えでした。例えばさとうきびでは、6月から9月までの期間のみのかん水を想定していました。

現在、平成21年から新たに国営事業の宮古伊良部地区を実施しておりますが、当事業では、新たに地下ダムをつくり、これまでの限られた期間のみの水利用ではなく周年水が使えることを想定し事業を進めているところです。

○委員（具志純子） 既に事業を進めてるということですか。

○企画指導官（金子誠） はい。先日の現地調査の際に農家さんのお話を聞いたときに、利用したい時に水が足りないことがあって困るという話がありましたが、今御説明したとおり、これまでの期別かんがいから通年かんがいに対応できるよう整備を進めているところです。

○委員（具志純子） わかりました。あと、「今後の経営安定のために、かぼちゃ、マンゴーへの転換の促進」と記述がありますが、現地調査の際にお邪魔したメロン農家の友利氏のお話では、もっと作って欲しいという要望が多いがネット注文分しか対応できないということでした。これは、今後、宮古島でメロンにも力を入れていく可能性があるということではないでしょうか。値段も結構高く非常に興味深く聞いていたのですが。

○企画指導官（金子誠） メロンについては、事業計画時の作付面積に比べ面積は落ちてます。それは価格の低迷等が要因です。友利氏は、当事業によって水が自由に使えるようになったことでメロン栽培に取り組んでいますが、独自の販売ルートを持っています。これまでの農協だけの販路ではなくネット販売に取り組む等流通コストも考えた上で独自の販売戦略、経営を練っている農家という認識です。

○委員（具志純子） 土地改良もそうだけど、やっぱり水が自由に使えるようになって計画的に作物が生産できるというのがすごく大きいですね。わかりました。ありがとうございました。

○座長（中村真也） よろしいでしょうか。

○委員（杉村泰彦） メロンやすいかについては、今、具志委員からお話がありましたけれども、売り方が変わったので、計画どおりの作付がなくてもそれは仕方がないことであって、逆に計画にない作物が伸びてきているのは可能性が広がったということで評価できることかと思います。

もう1つ、現地で強調されてたのは、雨待ちをしなくてよくなったこと、適期作業が出来るようになったことなので、これは重要な意味があると思います。

ただ、飼料作物が増えているということについては、仔牛価格の高騰という背景もあるのですが、受益者以外から見ると、畑地整備の事業をして、餌を生産するというのはやや違和感があると思いますので、丁寧な説明が必要かなと思います。

現地で話を伺うと、飼料作物がそもそも高いという話や、宮古島自体の畜産の拡大、何よりふん尿の投入先として活用されていることも含めて評価すべきだと思います。

ただ単に飼料作物が増えただけだと、飼料基盤整備ではないのでどう説明するのか気になったところでございます。以上です。

○座長（中村真也） 飼料作物の作付面積が増えたことに関しては、どういう評価をされていますか。

○生産振興課長（奥平雅彦） 飼料基盤整備につきましては、畜産の公共事業で進めているところですが、予算の関係もあり十分に組み立てていない実態もあります。

現在は、仔牛の価格も良く、畜産農家は飼料を求めています。国の政策としても自給飼料を増やしていく、外国からの輸入飼料ではなく国産の飼料を活用する取り組みを進めていますので、畜産農家は土地を借りたりあるいは自分の畑を転換して飼料作物を生産しているというのが現状です。御指摘のとおり畜産の基盤整備事業で取り組むことが基本ですが、このような事情もあり、畑地整備等で対応していることも、農家の所得の面から考えるとやむを得ない選択なのかなとは思っています。

○座長（中村真也） 周辺ではそういう飼料基盤整備というのはなされてないんですか。

○生産振興課長（奥平雅彦） 宮古島内でも実施しています。

○座長（中村真也） この砂川地区の周辺でしょうか。

○生産振興課長（奥平雅彦） 砂川地区周辺で実施されているかどうか確認してみます。

○総務調整官（白坂進一） 先ほど生産振興課長から説明があったように、現在は沖縄で実施される畜産公共事業の予算自体が少ない。実は土地改良事業を実施したところで、飼料作物が計画時よりも増えたという事例は結構あります。1つには今、繁殖牛の価格が非常に高いことがあります。特に、宮古島はさとうきびと畜産の両方やってる複合経営の方が多く、そういう方々にすると、土地改良事業を実施したところだと、通常は4回くらいしかとれない牧草が年6回も採れるので、牧草で牛を育ててその糞をたい肥として畑に還元するというよい循環の取り組みが実施されています。そういった意味でいうと飼料畑というのも農家にとっても色々な意味での効果があると考えています。

○座長（中村真也） 砂川地区の近くに私の父の土地があり、そこでもほ場整備の後に飼料を作っているのですが、事情はよく理解しています。畑地をしっかりと利用するという意味では価値のあることかなと考えますので、そのような位置付けで私どもも捉えていいのかなと思います。

関連してですが、36頁に平成14年当時の現況、計画、評価時点の作付面積の図がありますが、軒並み計画どおりとなっていないことが少し気になります。もちろん全て計画どおりいく訳はないですが、ほとんどもくろみが外れているような結果についてはどういう評価でしょうか。先ほど計画策定後の価格の低迷等が要因との御説明がありましたが、評価時点での問題、計画時点での問題や課題は何かありますか。

○企画指導官（金子誠） 後ほど説明させていただきます大保良田地区も同じ状況ですが、平成10～14、15年頃に計画が策定された地区は、その数年前にすいかやメロン等がそれなりに作付面積があったことを踏まえた事業計画となっています。

ただ、平成14、15年以降は、外国産のスイカが入ってきたことや、本土向けとしては時期合わないこともあり価格が

低迷し全体的に作付けが減少している状況です。

○座長（中村真也） たまねぎ、ピーマンもそういった事情があるのでしょうか。

○企画指導官（金子誠） はい。最終的にはそれらに代わる水を使った新たな作物を考えたときに、長期輸送等にも耐えられるかぼちゃが少しずつ作付けが増えてきているという状況です。

今、国営の宮古伊良部地区の営農計画では、かぼちゃも導入作物として位置付けていますので、そういう意味ではきちんと水を使った農業が展開されていると思いますし、宮古島市としてもかぼちゃは拠点産地品目として取り組みを進めていますので、引き続き水を使った営農が進めばと考えています。

○座長（中村真也） それぞれの作物の単収は良くなっているのですが、事業の効果があつたことははっきり分かっていますが、計画策定時点で何かもう少し検討が必要だったのでしょうか。

○土地改良課長（島尾武文） 計画策定に当たりましては、基本的にJAや、宮古島市の営農部局、地元の方々とも十分意見交換をした上で、市の農業振興計画等に基づいて、将来の作付予測等をしているところですが、畑作物は価格変動や、消費のトレンドが非常に掴みにくいところがあり、計画策定から10～15年経つと、当時の見込みが大幅に狂ったということも実態として起こり得るものです。今後の事業については、現在の状況や事後評価の結果等を踏まえまして、これまで以上に営農部局と十分意見交換をし、地域における将来の農業振興計画等を十分反映させた計画策定に努めたいと考えております。

○座長（中村真也） ありがとうございます。

○総務調整官（白坂進一） かぼちゃは、事業計画策定時、平成14年頃ですけど、その当時はニュージーランド産など外国産がかなりありましたが、それ以降にいわゆる国内産の安全性や品質が消費者に求められて、かぼちゃの作付けが徐々に増えています。

特にここ5年は宮古、石垣、沖縄本島もそうですが、かなりかぼちゃが増えています。沖縄では冬場にかぼちゃが出るので、宮古島のファーマーズなどでは、観光客の方がかぼちゃを買って、それを宅急便で本土に送るほど非常に人気があり、かぼちゃを生産しようという方が増えています。

そういったこともあって、計画策定時になかったかぼちゃが今、非常に多いと認識しています。

○生産振興課長（奥平雅彦） 計画時点からの乖離という意味では、葉たばこはかなり計画より落ちていますが、葉たばここの場合は生産調整がなされており、増やすことは難しい状況ですのでこのような結果になっています。

○座長（中村真也） ありがとうございます。

○委員（杉村泰彦） 大田市場でかぼちゃの調査をしたことがありますが、沖縄県産のかぼちゃは大変高価な高級品のかぼちゃという評価でした。価値としてはやはりそういうものに対応できたということが大事で、計画から外れたかどうかということは大きな問題ではないと思います。

○総務調整官（白坂進一） 水の手当が出来、なおかつ、ほ場がきれいに整備されたからこそ計画にない作物にも転換が可能であったと思います。

○委員（杉村泰彦） 機敏に対応できたということですよ。たばこは御説明があつたとおり社会情勢の変化があるので仕方ないのかなと思います。

○委員（具志純子） この土地改良事業と地下ダムのおかげで、農家は計画どおり作付けが出来るということが一番喜ばれてましたね。事業実施前は、午前中は水くみに追われ大変だったのにそれがなくなったと。それから農協に行ったときも計画的に作物が出荷できるから効率的だと話をしましたね。これが一番いいのかな、消費者にとっても計画的に作物が手に入るというのは助かります。宮古島ではとても品質の良いかぼちゃが沢山ありました。

○座長（中村真也） 他に御意見等ありますでしょうか。

私から1点。この事業で勾配修正等を行ったことで、赤土・耕土の流出を押さえることが出来たことについて評価できていると考えていますが、その記述ぶりで少し気になることがあります。事業前に実際に海岸まで到達するような赤土の流出があったのかどうか少し疑問がありますので、そこを全面に出すよりは、適切に地域内で流出を抑えることが出来るようになったことをしっかり評価するという記述のほうがいいのではないかと思います。

具体的には、事業による波及効果として「海洋への赤土流出が抑制される」とまで書かなくても、「地域内での処理がしっかりされたことで地域外への流出が抑制された」というような記述ではどうでしょうか。

また、事業により機能的な農地、農村が整備されていますが、機能的な景観は美しいと考えますので、それだけでも美しい農村景観の実現に寄与していると評価出来ると思います。また、事業による波及効果としては、生活環境の利便性向上等を主に記述するほうがよいと思います。

○土地改良課長（島尾武文） 御指摘のとおり記述ぶりを修正させていただきます。ありがとうございます。

○座長（中村真也） 他に御意見等ありますでしょうか。

○座長（中村真也） それでは、これまで御意見ありましたことを踏まえ、事業評価の結果欄で、単にかぼちゃやマンゴー等の作付面積が増加しているという記述ではなく、水の確保や基盤整備のおかげで、新たな品目導入におけるいくつかの要求に対しても適切に対応できたことを評価していただいても良いのではないかと思います。

事業自体は計画されて、その計画に則ってこれだけの効果が出るということがまずお金の使い方としては求められるはずで、計画が大きく外れないようにすることがまず大事で、今の新規の作物への対応についても、想定してなかったところでうまく対応することができたのは適切な整備のおかげであるという記述が良いと思います。

○土地改良課長（島尾武文） 御指摘・御意見を踏まえまして、まとめ方・記載ぶりを再度検討し次の機会に御相談させていただきますと思います。

○委員（杉村泰彦） くどくなり申し訳ありませんが、飼料作物については、その価値についてはよく理解できることです。私も沖縄に来て、その重要性はよく分かるのですが、前、北海道にいた経験からだとも他県では理解されないところもありますので、懇切な説明が必要なんじゃないかと思います。念のため再度補足させていただきます。

○土地改良課長（島尾武文） 承知しました。

○座長（中村真也） それではよろしいですか。幾つかの意見が出ましたので、次に移りたいと思います。これは審議まで含めて終わったということによろしいでしょうか。

○企画指導官（金子誠） 1地区毎の議論でお願いいたします。

○座長（中村真也） それでは、砂川地区の審議はここで終わり、次に移りたいと思います。

それでは、大保良田地区の地区別結果書（案）について、御説明をお願いいたします。

○企画指導官（金子誠） それでは、大保良田地区につきまして資料3に基づき説明させていただきます。

#### <以下、資料3を説明>

○座長（中村真也） 只今御説明のありました大保良田地区の事後評価について質疑を受けたいと思います。いかがでしょうか。どなたからでもよろしいです。

○委員（具志純子） 整備された施設は、竹富町及び大保良田組合により適切に管理されているが維持費が高いことが課題になっているという記述がありますが、これは要するにずっと維持費が課題になっている、続くということですか。

○企画指導官（金子誠） イメージしやすい写真として、73頁を見て頂きたいのですが、アスファルトの農道については町で管理しています。支線の排水路の部分や末端の水路、あと砂利舗装された農道については組合で管理しています。組合が管理している部分については、農家が農作業等と合わせてしっかり管理していると聞いていますが、

年々施設の老朽化が進み維持管理が高くなりますし、農家の高齢化もありますのでその負担軽減について考える必要があるというのが課題としてあるのかと認識しています。

課題に記述のある「多面的機能支払い」については、現時点ではこの地区は該当はしていないようですが、町としても今後は検討していきたいということでした。

このような交付金等を活用できれば、組合の負担軽減になるのではないかと考えています。

○委員（杉村泰彦） 計画時点と評価時点の生産額に差がありますが、説明の仕方としては計画どおりの作付け等が難しかったというところなんじゃないかな。

○企画指導官（金子誠） そうですね。難しかったというのは、やっぱりメロンやすいかです。

○委員（杉村泰彦） マンゴーが全く入らなかったってことなんですね。

○企画指導官（金子誠） そうです。評価時点では作付けがありません。

○委員（杉村泰彦） あと機械経費も想定外の動きになってるんですが、これは委託したからそれでいいっていう考えなんじゃないかな。

○企画指導官（金子誠） 水稻につきましては、1生産組合に2名従事者がいますが、この1組合で集積して経営している状況ですが、事業実施により湿田だったぬかるみ等が解消されて機械化が進んでいます。

○委員（杉村泰彦） 機械化が進んだことが要因なので、評価時点で機械経費が上がったことについては問題がないというふうに捉えればよろしいでしょうか。

また、計画では面積当たり14万6,000円/haとありますが評価時点では18万7,000円/haで計画どおりには至っていないということでしょうか。

○企画指導官（金子誠） 確かに計画の現況時点よりは機械経費が下がってるということで評価を考えてきましたが御指摘のとおり計画と比較すればまだ高い状況ではあります。

○委員（杉村泰彦） 機械化は進んだということは評価出来るのですよね。

○企画指導官（金子誠） はい。計画策定当時に比べれば、経費も節減されてるという考えです。あと、関連しまして78頁に労働時間を記述していますが、水稻1期でみると、計画では277 hr/haで考えていましたが、評価時点では163 hr/haと労働時間が計画以上に節減されていますので、当時計画していた機械装備よりも少し規格が大きくなり能力が上がったことによるものと想定しています。その関係で機械経費については逆に計画より若干高くなっている可能性があります。

○委員（杉村泰彦） 機械が高くなるのはわかりましたが、委託してるってことですもんね。個人で持ってるってわけじゃないってことでしょうか。

○企画指導官（金子誠） 水稻については生産組合が機械を所有しています。

○委員（杉村泰彦） さとうきびのほうは。

○沖縄県担当（前富里善信） さとうきびについては当地区はまだハーベスタは導入されてなく、手刈りでの収穫です。あと、水稻に関しては全部法人に委託しております。

○委員（杉村泰彦） そうですか。

○座長（中村真也） 労働時間に関して、視点は違うかもしれませんが、当時と今で労働時間が増えてるという形に



見えてますよね。

○企画指導官（金子誠） はい。

○座長（中村真也） これは新たに入ってきた作物の分の影響ですよ。

○委員（杉村泰彦） 主にかぼちゃですね。

○座長（中村真也） かぼちゃがそうですね。それは全て今と過去で新たな労働時間を足して、節減した労働時間を引くという評価になるのでしょうか。

○企画指導官（金子誠） かぼちゃについて、925 hr/haの労働時間が大きいという御指摘かと思いますが。

○座長（中村真也） かぼちゃの労働時間が大きいということではなく、例えばかぼちゃが新規導入されればその時間も増える訳ですから当たり前ですよ。ただ、過去になかったから0 hr/haとなっていた労働時間が925 hr/haになると品目全部足してしまったら、事業後のほうが労働時間が増えていると誤解される懸念があるので整理の仕方を検討したほうがよいのではと思います。

○土地改良課長（島尾武文） 労働時間につきましては、品目毎に比較することに意味があり、品目別の労働時間を合計することにあまり意味はないので、御指摘のとおり表を整理し直します。

○座長（中村真也） 労働時間について、水稻で見ると計画時の現況1,030hr/haから163hr/haまでかなり節減されているのでごい効果ですよ。事後評価のところで大幅に効率化したと積極的にアピールしてもよいことだと思います。表現や整理の仕方を工夫したほうがよいかもしれません。機械経費についても、機械化が進んだことにより経費が高くなるという視点もありますよね。

○委員（杉村泰彦） 生産額については、評価時点では計画の10分の1、機械経費については、評価時点では計画の10倍となっています。やっぱり合計に意味がないのであれば誤解のないような整理の仕方やしつかりとした説明は必要かなと思います。

○座長（中村真也） 今、作付がさとうきびと水田に分かれてますが、これは計画で水田エリアと畑地エリアに分けているのでしょうか。それともどちらも転換可能か。

○企画指導官（金子誠） 77頁に大保多田地区の作付状況図を添付していますが、地区の北側はほぼ水田です。南側は畑地でその各ほ場で個別に給水栓が整備されている状況です。

○座長（中村真也） かぼちゃは沖縄本島に出荷されているんですか。それとも県外に出荷されているんですか。

○委員（具志純子） 県外へ結構出荷されているのではないのでしょうか。

○総務調整官（白坂進一） 県外が多いと思います。ちょうど本土の端境期に当たります。

○委員（杉村泰彦） 規格外であれば沖縄県内に出回ることもあるかもですね。

○座長（中村真也） そうなんですね。

○委員（具志純子） 高いですよ。

○総務調整官（白坂進一） 外国産と比べると高いです、1玉500円くらいしていました。ちょうどこれから2月頃から出回ります。

○企画指導官（金子誠） 沖縄県内なら「えびす」という品種のかぼちゃがよく作付けされていますが、当地区は「こふき」という珍しい品種でして、同じかぼちゃでも希少価値があると思います。

○委員（杉村泰彦） こふきは関東で価格が高いんですよ。東京では人気がある品種ですね。

○座長（中村真也） そうなんですね。

○委員（具志純子） 最近ニュースで、沖縄仔牛がすごく評判がよく、ほとんど県外へ出荷されるので高いという話を聞いたのですがそうなんですか。

○総務調整官（白坂進一） 沖縄の仔牛の評価は高いです。本土も松阪牛等いろんなブランドの牛がありますが、沖縄の仔牛を肥育したものも結構あります。

○委員（具志純子） 向こうで育ったのがブランドなんだけど、沖縄の仔牛って評判いいんですね。

○総務調整官（白坂進一） そうですね。生産農家の方々は非常に技術もありますので、本土からも多くの購買者が競りに来ています。

○委員（具志純子） なるほど。

○座長（中村真也） 当地区は、貯水池の整備もされていましたよね。すいか等を想定した計画と違った作付けになったことで水が足りなくなるという心配はありますか。

○企画指導官（金子誠） 74頁に貯水池の写真を添付していますが、結構大きい貯水池です。水稻もあるので当然水量も多くなりますが、計画時点ではすいか等畑地かんがいの水も想定していましたので、評価時点の作物であるかぼちゃ等に変わっても問題ないと考えています。

○委員（杉村泰彦） 事業前後の農家数について、15戸から7戸へ半減し、1戸当たりの経営面積が0.9haから3.0haへ約3倍になっていますが、かなり劇的な変化ですね。

○企画指導官（金子誠） そうですね。農家数は減っていますが全て専業農家になっており、またほ場の区画が整形されたことで農地の集積も図られています。

○委員（具志純子） 83頁の「事業実施による環境の変化」に記述がある小学校の稲作体験学習に興味があります。食や昔の農家の大変さを知ることは大事だと思いますが、この取組は小学校が年間通して実施しているのですか。子供たちが、植え付けや、手入れ、刈り取りまで学校教育の一環としてやってるのか、それともただ体験でやってるのか、どっちなんですかね。

○沖縄県担当（前富里善信） この取組については、行政からすれば農業農村整備事業のPRという意味もありますし、学校からすると子供たちに小さいときから農業に触れさせる目的があり、両方がタイアップして、一体となって10年以上前から継続して実施されているものです。

○委員（具志純子） これは年間通してやるのではなくて、企画のときだけ参加してもらうものでしょうか。

○沖縄県担当（前富里善信） 県独自の事業「ふるさと農村活性化基金事業」を活用しています。稲刈りの時、あと植え付けの時に皆さんを集めて一緒になって農作業体験行っています。また関係者等を島外からも呼んで、沖縄本島からも水土里ネットおきなわの職員、県の職員、あと役場の職員が一緒になって、みんなで体験学習をするということを継続して行っています。

○委員（杉村泰彦） 学校としては総合学習の時間と記載がありますから1年間のプログラムとして年継続でやって

るんじゃないですか。

○委員（具志純子） 植えつけて、手入れをして、刈り取る。その後おにぎりにして食べるのか、販売するのか、農業体験から食育という観点で非常に興味を持ちました。

○土地改良課長（島尾武文） 取組の内容については再度調べてから回答したいと思います。

○委員（具志純子） ありがとうございます。

○座長（中村真也） 事業実施による環境の変化の自然環境について、サガリバナの記述がありますが、事業実施によって周辺環境にどういう影響を与えたかという視点で記述するという認識でよろしいでしょうか。砂川地区ではそのような視点での記述になっていたかと思います。大保良田地区についても同じように、自然環境に影響がないような事業・整備が出来たという事を一言入れておくべきだと思います。

そういう配慮をして実施事業をしてるはずですので、例えば、当地区周辺は沢地形で小川があるがそこへの影響はほぼ無いとか、事業実施前と同じ環境、同じ状況にある等一言入れたほうがいいのかと思います。

まだ多少時間があります。他に御意見はありますか。

○委員（杉村泰彦） 今後のことを考えると当地区はお米だけでは難しいと思いますのでかぼちゃが導入できたことをもっと積極的に評価したほうがいいのかと思います。

計画していなかったものだが、新しい作物に展開できたことは積極的な評価ができるんじゃないかなと思います。

○企画指導官（金子誠） 了解しました。

○座長（中村真也） 農家の戸数が7戸となっていますが、何歳くらいの方が中心になっていますか。

○沖縄県担当（前富里善信） 生産法人で請け負ってる方は40代です。地区全体でいくと平均年齢70代と聞いています。

○委員（杉村泰彦） 7戸中5戸は認定農業者でいらっしゃるんですね。

○企画指導官（金子誠） そうです。平均年齢については再度確認してみます。

○座長（中村真也） 他に何かありますか。

○委員（杉村泰彦） 写真では当地区の周りは丘に囲まれてるように見えるんですけど、丘なんですか、ただの林なんですか。分けられてるようでおもしろいなと思って。

○座長（中村真也） 沢が入ってるんじゃないんですか。

○沖縄県担当（前富里善信） 沢を止める形で貯水池を造っています。

○座長（中村真也） 沢を境に高低差があって、そこの境が森のようにになっているように見えます。

○土地改良課長補佐（今別府純一） 72頁を見ていただければ分かりやすいかと思います。周りがちょっとした林のようになっています、その林に囲まれて1つの地区があります。

○委員（杉村泰彦） 高低差があり林のようになっていれば地区内には風が吹かないから園芸利用とかもってこいですね。

○企画指導官（金子誠） 生産組合の代表者の話だと、結構風が当たるらしいです。ただ、西表島東部の中ではまだ

風の影響が少ない地区だとは思いますが。

○委員（杉村泰彦） どこも離島は風対策が大変なので確認してみたところです。

○座長（中村真也） 地区の場所は位置図で見ると大原付近ですね。

○土地改良課長補佐（今別府純一） 大原の南側に位置しています。

○座長（中村真也） 南風見の浜に向かうところでしょうか。あの辺にできたリゾート施設はこの辺りでしょうか。

○企画指導官（金子誠） 当地区の近くには西表島の製糖工場がありますので、西表の製糖工場を御存知であれば当地区の位置が分かるかと思えます。

○座長（中村真也） 位置については了解しました。他に御意見はありますか。当地区についてもこれまでの御説明・御意見等を踏まえても事業の効果は明らかにあるように思えます。他に特御意見がなければ当地区について審議を終わりますがよろしいでしょうか。

○各委員 異議なし。

○座長（中村真也） それでは、砂川地区も含めて全体でこれは言っておきたいとか、気づいた点がもしありましたら御発言をお願いします。

○委員（具志純子） 今回参加させて頂いて一番感じたのが、農家さんの水の苦労が無くなったということが一番大きかったですね。ただ、水を使う日はルールがあるが一部ルールを守らない人がいるという問題があるとは言っていましたけど。それから計画的に作物が作れるということはやっぱりいいですね。今回参加して本当に感じました。いい勉強になりました。ありがとうございました。

○座長（中村真也） その他御意見等はよろしいでしょうか。それでは議事2「事後評価地区別評価書（案）」、議事3「質疑応答」について終わりたいと思います。

それでは、最後の議題になりますが、議事4「今後のスケジュール」について事務局より御説明をお願いいたします。

○企画指導官（金子誠） それでは、今後のスケジュールにつきまして資料1に基づき説明させていただきます。

これまで12月上旬に局内の幹事会、それから砂川地区については、技術検討会現地調査を12月14日と17日に実施しました。その内容を踏まえ、1月に局内の幹事会・委員会を実施し、本日第1回補助事業管理委員会技術検討会を開催させて頂きました。

今後は、今回頂きました御意見・御指導を踏まえ、評価書へ反映させていきたいと考えています。

それと併せて「第三者の意見」として取りまとめることとなりますが、2月上～中旬局内の幹事会委員会、その後、第2回補助事業管理委員会技術検討会を開催したいと考えています。その際は、公表予定の議事録も含め御検討頂きたいと思えます。

なお、開催方法につきましては、今回のように一堂に会するか個別にお邪魔して一括照会させてもらうか検討中です。後日、日程調整も含め開催方法についてご連絡させて頂きますのでご対応方どうぞよろしくお願い致します。

それらの結果を踏まえまして、最終的には2月末までに農林水産省に報告、3月末に結果の公表を予定しています。

○座長（中村真也） 只今御説明がありました今後のスケジュールについて、お伺いしたいことはありますか。

○各委員 特に無し。

○座長（中村真也） 次回の技術検討会では、事後評価結果を踏まえながら第三者の意見を取りまとめたいと思いま

すのでよろしくお願いいたします。

議題の全てが終了いたしましたので、事務局に進行をお返しします。

○司会（島尾武文） 委員の皆様、本日は長時間にわたりまして熱心に御議論を頂きまして本当にありがとうございました。

今後につきましては、先ほど事務局から説明を申し上げましたとおり、本日の議事概要の取りまとめ、評価書の見直し等作業を進めていきたいと考えております。引き続き御指導いただきますようよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の第1回農業農村整備事業等評価技術検討会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

閉会